

# 28amG-002

金城学院大学薬学部における心肺蘇生法および AED の実技講習－体制整備と学生の意識変化

○林 弥生<sup>1</sup>, 今井 幹典<sup>1</sup>, 小幡 由紀<sup>1</sup>, 小崎 康子<sup>1</sup>, 野田 康弘<sup>1</sup>, 前田 徹<sup>1</sup>, 矢野 玲子<sup>1</sup>, 安田 公夫<sup>1</sup>, 大原 直樹<sup>1</sup>(<sup>1</sup>金城学院大薬)

**【目的】**金城学院大学薬学部では、新入生を対象に早期体験学習の一環として、2008年度より心肺蘇生法および AED(自動体外式除細動器)の実技講習を実施している。この講習を始めて 4 年が経過したが、救命応急手当普及員の資格を持つ教員数も増え、また、高校や自動車学校などで講習を経験済みの学生も多くなった。今回は、現在の実技講習の実施状況と、心肺蘇生法および AED に関するアンケート調査の結果(初年度と今年度の比較)について報告する。

**【方法】**初年度には、学生への実技講習に先立って教員への実技講習を行い、サポート教員を育成した。救命応急手当普及員の教員に加えて、各グループ(全身人体モデルまたは半身人体モデル 1 体につき学生 5 名)にサポート教員 1 名を配置する指導体制を整えることにより効果的な実技講習の実施が可能となった。2009 年度末にはさらに 2 名の薬学部教員が救命応急手当普及員の資格を取得し、2010 年度からは有資格者の教員 4 名とサポート教員で実技講習を実施している。また、2011 年度からは各グループに高校や自動車学校などで講習を経験済みの学生 1 名をリーダーとして配置し、サポート教員 1 名と協力して他の学生の指導の補助を行う体制としている。また、初年度から名古屋市消防局の普通救命講習基準を満たす講習会として申請により受講者全員に修了証の交付を受けている。

**【結果と考察】**救命応急手当普及員の資格をもつ薬学部教員が 4 名となったことで、1 度に 40 名までの実技講習が可能となった。また各グループにサポート教員に加えて学生リーダーを配置することで、よりきめ細やかな実技指導ができるようになった。現在、今年度の実技講習を実施中であり、その終了後にアンケート調査結果を解析し、初年度のアンケート調査結果と比較して報告する予定である。